

第1回 議事要旨

< 地方公共団体との研究会 >

日時：平成19年6月18日（月）16:00～17:00

議題：研究会の進め方について

出席：稲澤克祐専門委員、佐藤徹専門委員

東京都、埼玉県、愛知県、和歌山県、横浜市、多治見市

趣旨：当面の研究会の進め方について、専門委員および市場化テストに先進的に取り組んでいる地方公共団体に意見を求め、問題意識を共有したうえで、今後の研究会で検討していくべき論点の整理を行う。

地方公共サービス部会では、地方公共団体からのニーズを幅広く汲み上げること等を目的として、「地方公共団体との研究会」を実施し、6月18日に第1回の研究会を開催した。

第1回の研究会では、市場化テストを導入するにあたっての諸課題を整理、検討していくことが確認された。

< 当面の進め方について合意が得られた事項 >

- 1．研究会で検討するテーマとして、「市場化テストの導入における課題」を取り上げ、官民競争型等の市場化テストを実施済み、または実施予定の地方公共団体等との意見交換を実施するとともに、専門委員のアドバイスを受けながら論点整理を進めていく。
- 2．研究会は、設定した論点について、知見または関心のある団体に参加を求め、1～2か月に1回程度の割合で開催して議論を行い、検討結果を取りまとめた上で、年度内を目途に公表する。

<研究会で出された主な意見（地方公共団体）>

「市場化テスト」の手法によって行政改革を行うことについて、各部署の理解が得られにくい。「市場化テストの実施によって得られる効果」や「民間委託との違い」などを整理しておく必要がある。

官民競争を行う場合においては、庁内における動機付けや、手続上の課題（入札手続の煩雑さ、定員・予算スケジュールとの整合）が大きな障壁となっている。

官民競争型市場化テスト特有の問題点としては、どこまでを間接経費とみるかといった「官のコスト把握」や、入札担当部署と事業担当部署との「情報遮断措置」、対象事業の所管部署に対する「インセンティブ」などがあげられる。

総合評価一般競争入札における評価の仕方、特に質と価格のバランスの取り方が難しい。

対象事業の選定にあたっては、考え方の整理、市場化テストに対する庁内の理解、トップのリーダーシップが課題と考える。

「市場化テスト」には、法律の特例が使える可能性がある、行政がこれまで発想しえなかった手法や、ノウハウを活かした提案が民間側からなされる可能性がある、という点に魅力がある。

<研究会で出された主な意見（専門委員）>

官民競争入札に特化された問題点が出された一方で、そもそも「市場化テスト」になぜ取り組むのかといったことに対する分かりやすい説明も求められている。

研究会において、「市場化テストの実施」における論点を整理検討していくことで、これまでのアウトソーシングの在り方を幅広く見直すきっかけにもなると考える。

「市場化テスト」を導入する段階で、その目的についてしっかり議論し、庁内で理念を共有しておくことが重要。

（文責：内閣府 公共サービス改革推進室）